



消耗循環

壊れる前の人ほど、よく喋る。

壊れてはいない。
崩れてもいない。

ただ、削れている。

それでも人は、立つ。
話す。
合わせる。

破綻は起きていない。
だから、止まらない。

これは、弱さではない。

逃避でもない。

甘えでもない。

多くの場合、

誠実で、機能している。

問題は、意志ではない。

削れながら、動けてしまうことだ。

適合しない環境では、
まず、自分の内側が薄くなる。

違和感は処理され、
沈黙は先送りにされる。

回復より先に役割が来る。
整う前に、応答が求められる。

内側で引き受けきれなかったものは、
別の調子で外へ出る。

強すぎる語気。
軽すぎる明るさ。
止まらない出力。

崩れていないように見えるほど、
循環は深くなる。

壊れていない。

評価もある。

成果も出る。

同時に、摩耗している。

機能していることと、

削れていないことは、同じではない。

明るさと空洞。

適応と逸脱。

稼働と疲労。

それらは、並立する。

A dimly lit dressing room with a vanity mirror and chair. The mirror is framed by a ring of warm, glowing lights. On the vanity table, there are several bottles and a dark bag. A chair is positioned in front of the mirror. The overall atmosphere is quiet and contemplative.

まだ、動けてしまう。

だから、止まらない。



Edition — 存在の芯
別景：消耗循環

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026